

第2学年 道徳学習指導案

平成31年1月16日(水) 5校時

2年4組32名

授業者 宮城 右

1 主題名 「学校の伝統を引き継ぎ、伝説にかかわることの大切さ」

C15 よりよい学校生活、集団生活の充実

2 資料名 「伝統で終わることなく伝説に」

出典：『中学生の道徳 かけがえのないきみだから』学研

3 主題設定の理由（指導観）

(1) 価値観

本主題は、内容項目C15よりよい学校生活、集団生活の充実「これまのでの先輩や保護者、地域の人々の長年の努力によって培われた学校独自の校風を、後輩たちが協力し合って継承し、さらに発展させよりよい校風づくりをしていくこと」をもとに設定したものである。よりよい学校生活を送るためには「教師と生徒一人一人が学級や学校で自分自身の役割と責任を果たし、互いの人間関係を深め、協力して生活すること」が必要である。また、集団生活が充実するためには「自分の属する集団の意義や目指す目的を十分に理解し、自分の役割と責任を果たす」ことが必要であり、さらにその基盤には集団内のお互いが「規律を守り、互いに思いやり協力し合う」という関係性が必要である。

中学校入学間もない時期は、学校に対する愛校心や帰属意識も十分とは言えない傾向がある。学年が上がるにつれて、諸活動への慣れや、それらから得られた充実感等から学校の一員であるという自覚が次第に高まっていく。しかし、一方で中学生の時期は自己中心的な所属感や一体感を求め、排他的な集団になってしまう時もある。

そこで、学校のよさや校風等を取り上げ、学級や学校の一員であることの自覚を促しつつ、自らを振り返ることをとおして「集団の中の自分の在り方」について考えさせたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は明るく活発で授業や諸行事に協力して取り組むことができる。

12月に大宮中学校全生徒を対象に実施した「生徒アンケート」の結果から、27項目平均達成率は78.5%と高く、多くの生徒が「学校生活は充実している」と感じていることが推察される。また、本授業で扱う内容項目C15「よりよい学校生活、集団生活の充実」に関連がある「大宮中学校の生徒であることを誇りに思う」(87.1%)、「行事に楽しく参加している」(91.4%)ではそれぞれ高い達成率を示している。学校のリーダーとして校風や雰囲気作りの中心となる2年生の今の時期に、「集団を高める」ことや「その集団の中の自分のあり方」について考えさせたい。

(3) 教材観（資料観）

本資料の主人公（隆弘）は、男衾たかひろ中学校の陸上部おぶすまに所属している。主人公は陸上部の長年の伝統

である練習のはじめに掃除をすることに疑問を抱いている。陸上部の親友である裕貴は全国大会に出場することになった。主人公は大会までの練習中の先生方・PTA・地域の方たちの陸上部に対する応援や大会当日の応援の様子、校長先生の声かけから大切なことに気づき始める。登場人物の校長先生の声かけにより、主人公のぼくが「伝統で終わることなく伝説に」の意味に気づく場面と生徒自身のこれまでを重ね合わせて、「集団を高める」ことや「その集団の中の自分のあり方」について考えさせたい。

4 資料分析

ねらいとする道徳的価値を踏まえての記載				
場面（あらすじ）		主人公の心情の変化	発問の意図	発問
価値を自覚していない	・練習時の掃除の場面。	・掃除の理由が分からない。トレーニングをする方が効果的ではないか。	・掃除の理由が分からない「ぼく」の気持ちに、授業を受けている生徒の気持ちを重ねさせたい。	「ぼく」は掃除の理由が分からないときどのような気持ちだったのだろうか。
価値を自覚し始める	・全国大会で走り終えた裕貴やぼくたちへの祝福の言葉をもろう場面。	・男衾中学校全体が喜んでくれているし、応援してくれる。成績の善し悪しではないんだ。	・成績の善し悪しでなく応援される男衾中学校について考えさせたい。	「ぼく」は裕貴のレース後、祝福の言葉を受けてどんなことを感じたのだろうか。
価値を自覚する	・校長先生からの言葉を受けて「ほうきを持つぼくの手が一瞬止まった。そうか、そうだったのか…」の場面。	・伝統＝「先輩たちが受け継いでくれたよさや大切なこと」。伝説＝「今いる私たち一人ひとりがつくる私たちの学校の在り様」ではないか。	「ぼく」に自分を重ねて、「学校を思う気持ち」「伝統を守ることが伝説につながる」ことについて考えさせたい。	「そうか、そうだったのか……。」の場面で「ぼく」は何を感じたのだろうか。
価値を自覚した後	・「いつもどおりの練習」で「両手のこぶしを固く強く握りしめた」場面。	・今までの伝統を大切にしつつ、今の自分たちにできる当たり前前のことを当たり前前に続けていこう。		
評 価		【1 時間の中で期待する子どもの姿】 「伝統で終わることなく伝説に」ということについて考えている「ぼく」に自分を重ね、学校の一員としてよりよい校風をつくっていくことの大切さについて考えることができたか。		

5 本時の指導

(1) ねらい

「伝統で終わることなく伝説に」ということについて考えている「ぼく」に自分を重ね、学校の一員としてよりよい校風をつくっていかうとする心情を育てる。

(2) 授業の工夫

教師の発問に対する生徒の発言や考えへの「問い返し」を意識的に行うことで、生徒の多面的・多角的な考えを引き出し、人間としての生き方についての考えを深めさせたい。

(3) 展開

過程	学習活動と発問	予想される生徒の発言や心の動き	指導上の留意点 評価★
導入 5分	①「大宮中の伝統は何ですか？」 ②「大宮中のよさは何ですか？」 ③「伝統やよさは誰がつくったのですか？」	①「応援合戦」「文武両道」 ②「部活が強くなってきている」「We are One」「勉強ができる」 ③「これまでの先輩」「今の自分たち」	・道徳的価値への方向づけをする。 ・資料への関心を高めるようにする。
展開 40分	前段 25分 ④資料を読んで話し合う。教師が範読を行う。 ○「ぼく」は掃除の理由が分からないときのような気持ちだったのだろう。 ○「ぼく」は裕貴のレース後、祝福の言葉を受けてどんなことを感じたのだろう。 ◎「そうか、そうだったのか……。」の場面で「ぼく」は何を感じたのだろうか。	・やらされる意味が分からない。 ・面倒くさい。 ・練習をした方が速くなる。 ・成績の善し悪しではなく、みんなが応援してくれる。 ・学校を思う気持ちが大切。 ・伝統を守っていくことが、伝説につながる。	・掃除の理由が分からない「ぼく」の気持ちに、授業を受けている生徒の気持ちを重ねさせたい。 ・成績の善し悪しでなく応援される男衾中学校について考えさせたい。 ★「ぼく」に自分を重ねて、「学校を思う気持ち」「伝統を守る」ことが伝説を創ることについて考えを深めることができたか。
	後段 15分 ⑤自己の生き方について考える。 ○大宮中の一員とし		自己を振り返り、「宮中生の一員として、校風づくりに自分なりにかかわってること」「できていないこと」について考えさ

		て、「大宮中を大切にできたなあ」「できていたかなあ」と思うことを書いてみよう。		せたい。
終末 5分	⑤本時のまとめ 説話			後段の様子を見ながら割愛することもある。

(4) 評価

「伝統で終わることなく伝説に」ということについて考えている「ぼく」に自分を重ね、学校の一員としてよりよい校風をつくっていくことの大切さについて考えることができたか。

(5) 板書計画

